

校内研修計画

勝沼小学校

1 学校課題

本校はどの学年も30名前後の小規模校であり、大規模校と比べると個人指導がいき届きやすいが、やはり社会の変化に伴い、児童一人ひとりの個性は多様化し、学習意欲や学習能力の個人差も大きい。

昨年度の実態も踏まえた各学級の算数科における児童の実態については、「学習意欲を継続させることが難しい。」「学力の散らばり（個人差）が大きい。」「用語の理解が不十分である。」「既習事項が定着していない。」「自分の考えを自分の言葉でなかなか表現できない。」などが挙げられている。

このような実態から、本校では算数科において「児童が学習意欲と目的意識をもつこと」「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けた上でそれらを用いること」「自分の考えを表現したり説明したりすること」などが課題であると考えられる。

2 研究主題

「自ら考え、進んで表現できる児童の育成」

～算数的活動の充実を図る指導の工夫を通して～

3 主題設定の理由

(1) 学校教育目標具現化の立場から

「知・徳・体」の調和がとれた人間性豊かな児童の育成を具現化するために、「知」においては基礎的・基本的な学力の定着とともに自分なりに知識を活用し、自らの考えを進んで表現できる児童の育成が大切であると考え。そうした力をつけることで、いずれは教育活動全体に渡って「自ら考え、進んで表現できる児童が育つのではないか。」と考えこの主題を設定した。

(2) 今日の課題から

今日、求められている「確かな学力」の中には、基礎的・基本的な知識・技能の習得は勿論、知識・技能を活用して、自分や人の考えを言葉または文章で表す表現力も一つの大事な要素とされている。知識を蓄えるだけでなく、その蓄えられた知識を活用し、自分なりに考えて課題を解決したり、自分の考えを表現したりする力をつけることが必要となってくる。集団の一員として、明るく、よりよい人間関係を育む基盤となる力を身に付けておくためには、相手の考えを理解し、尚且つ自分の考えを、相手に的確に伝える力が必要不可欠である。自分なりに考え、相手のよいところを自分の中に取り入れつつ、自分の思いを表現できる力を育てていくことが大切である。

(3) 昨年度の研究から

本校は、平成25年度から算数科を中心に研究を進めてきた。昨年度は「自ら考え、進んで表現できる児童の育成～基礎・基本の定着を図る算数科指導の工夫を通して～」をテーマに研究を進め、今年度は、その継続研究に入る。昨年度の研究の成果として、児童の実態に応じた課題の提示や教材の工夫、基礎・基本を重視した授業展開の工夫などが挙げられ、基礎・基本の定着を図るための研究を深めることができた。

以上のことから今年度は、昨年度までの研究の成果を生かし、基礎・基本の定着を図る指導を継続しながら、算数的活動の充実を図る指導について研究を行う。それにより本校児童の課題である学習意欲や学力差、表現力などの解決につながり、児童が目的意識をもって課題に取り組み、互いに関わり合いながら表現力を向上させていくと考え、本研究主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・理論研究（研究内容に関わって）
- ・授業実践および授業公開の実施

- ・一人一実践の取り組み
 - ・児童の実態把握（学習アンケート，NRT検査，Q-U検査等）
 - ・基礎・基本の定着のための日常的な取り組み
 - ・学習規律・学習環境づくりのための日常的な取り組み
- (2) 研究方法
- ・全体研究会とブロック研究会（低学年・高学年）を取り入れた研究体制で研究を行う。
 - ・講師を招いて，児童の実態に合った理論研究を行う。
 - ・授業研究をし，授業公開を行っていく。
 - ・児童に，研究テーマに関わるアンケートを行い，実態や変容について把握する。
 - ・NRT検査やQ-Uから，児童の実態を把握し，具体的な指導法を研究する。

年間校内研修計画

金井 京子

研究テーマ	教科領域	担当者	学年	授業の時期	TC要請
1 昨年度の研究および今年度の方向性	算数科	研究主任	全体		
2 ◇学校課題，研究主題，研究内容・方法，年間計画・日常の取り組み等について ◇学習アンケートについて					
3 ◇K-13法を用いた分析方法について ◇学習アンケート（1回目）の結果から ◇ブロックの研究テーマ・研究計画について （授業者決定）	学級集団づくり 算数科	研究主任 ブロック長	全体 ブロック		
4 ◇ブロックの研究テーマ・研究計画・研究授業について（確認） ◇K-13法を用いた分析（I）	算数科 学級集団づくり	研究主任 ブロック長	全体 ブロック		
5 ◇児童の実態把握（NRT検査の結果から）	算数科	研究主任	全体		
甲州市「確かな学力育成プロジェクト」学習会	学級集団づくり				
6 ◇Teacher's Noteの活用について	教科指導	研究主任	全体		
甲州市「確かな学力育成プロジェクト」講演会	授業づくり				
7 ◇理論研究（表現力を高める算数的活動の効果的な指導法について）	算数科	研究主任	全体		○
8 ◇教育課程の還流報告	教育課程	研究主任	全体		
9 ◇指導案形式・板書について ◇授業案検討	算数科	研究主任 ブロック長	全体 ブロック		
10 ◇授業案検討		ブロック長	ブロック		
11 ◇授業案検討		授業者			
12 ☆研究授業（I）		授業者	全体	10/14	○
13 ◇研究授業の反省	研究主任				
甲州市「確かな学力育成プロジェクト」授業研究会	授業づくり				
14 ◇授業案検討	算数科	ブロック長	ブロック		
15 ◇K-13法を用いた分析（II） ◇授業案検討	学級集団づくり 算数科	ブロック長	ブロック		
16 ◇授業案検討 ◇K-13法を用いた分析（II）	算数科 学級集団づくり	授業者 ブロック長	全体 ブロック		
甲州市「確かな学力育成プロジェクト」講演会	学級集団づくり				
17 ☆研究授業（II）	算数科	授業者	全体	12/2	○
18 ◇研究授業の反省 ◇研究紀要について		研究主任	全体		

甲州市「確かな学力育成プロジェクト」講演会	学級集団づくり				
19 ◇ブロック研究の成果と課題（確認） ◇学習アンケート（2回目）について	算数科	研究主任	全体		
20 ◇学習アンケート（2回目）の結果と考察 ◇今年度の成果と課題について					
21 ◇研究の成果と課題，来年度の方向性について					